

ICカードの使い方を
わかりやすく説明



朝のラッシュ時にバス停で一列になって待つ乗客。

学んだことを
現場で生かします



上：プロモーション用に作ったポスター。ICカードは「Rapid Pass」と名づけられた。下：大学で開催したプロモーションイベントの様子。



バスの運転手や関係者に向けてICカードや端末機の勉強会を開催。

女性でも安心して
公共交通を
利用できます



フェーズ1で使用した端末機は、持ち運びも可能。料金徴収を専門に行うスタッフも端末機を使用した。



ICカードを端末機にかざすだけで乗車できるため、乗り降りがスムーズに。



People's Republic of Bangladesh

バングラデシュ

国名：バングラデシュ人民共和国
通貨：タカ
人口：1億6,365万人(2018年1月、バングラデシュ統計局)
公用語：ベンガル語

2009年に誕生したハシナ・アワミ連立政権は21年までに中所得国となる政策を掲げ、企業はもちろん、あらゆる分野における全国的なIT化を目指す「デジタル・バングラデシュ」を打ち出している。

首都：ダッカ

交通ICTが社会のあり方を変える

日本で広く使われているICカードなどの交通ICT(情報通信技術)が、バングラデシュの公共交通や社会を変えていく。



案件名 ダッカ市都市交通料金システム統合のためのクリアリングハウス設立プロジェクト
フェーズ1：2014年6月～2018年6月 フェーズ2：2020年3月～2023年3月

クリアリングハウスとは

さまざまなデータを統合してやりとりする仕組みのこと。ここでは、おもに交通料金における以下の①～③を指す。

- ① 精算機能
各公共交通事業者と行う運賃精算の金額集計。
- ② カード発行・管理機能
ICカードの発行、ID管理、データ収集、管理。
- ③ 公共交通利用データベース機能
ICカード利用者の利用履歴等のデータベース作成、管理。

交通料金徴収をもっと便利にもっとスムーズに

バングラデシュの首都ダッカを中心とした都市圏は、近年人口の増加が顕著だ。それに伴い経済活動が活発化し、豊かになりつつある一方で、自動車の普及拡大による慢性的な交通渋滞や大気汚染を引き起こしている。そこでバングラデシュ政府は、高速バス輸送システムや、都市鉄道の開業をはじめとする大量輸送交通システムの整備を予定している。

この計画に不可欠なのがクリアリングハウスの構築だ。これはICカード発行、ID管理、精算などを行う交通料金徴収のシステムのこと。各公共交通機関が共通のICカードで利用できるようになる。ICカードを読み取り端末機にタッチするだけで料金徴収が可能になるため、これまで行われていた切符購入や、現金のやりとりにかかる手間と時間を省くことができる。

クリアリングハウスの構築とICカード普及で交通の円滑化を目指すプロジェクトにJICAから委託を受けて取り組んでいるのが、片平エンジニアリング・インターナショナルだ。「日本で多くの人が使っている交通系ICカードのSuicaやPASMOと

片平エンジニアリング・インターナショナル 代表取締役社長・専門家チーム業務主任
三石隆雄(みついし たかお)さん(右)

開発業務本部 イスラム・モハメド・アミヌルさん(左)

三石さんはプロジェクトの統括を、アミヌルさんはクリアリングハウスのシステムオペレーションを担当している。

交通サービスが変われば、社会のあり方も変わる

2014年から始まったプロジェクトの第一歩となるフェーズ1では、クリアリングハウスを構築し、ICカード端末機を現地IT企業とともに開発。さらにダッカ市内にあるバス会社3社をメインに、ICカードの読み取り端末機設置について実証実験を行った。このICカードの基本的なシステムには、共同で業務に取り組んだNECの技術が使われている。またハード面の整備だけでなく、回国でなじみのなかったICカードの利用者を増やすためのプロモーション活動も展開していった。「大学などでのイベント開催やテレビCM放送のほか、ウェブでのキャンペーンも行いました。学生だけでなく会社員の方からも好評で、とくに働く女性からの評価が高かったのが印象的でした」と、同社のアミヌルさんは現地の様子を話す。

族以外の男性と触れることはタブーとされています。しかしICカードがあれば、運賃を渡すときに男性運転手の手に触れる心配がなく、安心して公共交通を利用できるのです。ICカードの普及が進めば、女性の社会進出をさらに後押しできるかもしれません」と、今回専門家チームの一員として参加している片平信夫さんはプロジェクトの新たな可能性を示すほかにも、これまでにたびたび生じていた運賃の誤徴収がなくなる成果もフェーズ1を通じて感じたという。

片平エンジニアリング・インターナショナル 専門家チーム 片山信夫(はげやまのぶお)さん

開発協力事業を担うグローバルグループ21社の社長でもある片山さんは今回、片平エンジニアリング・インターナショナルの専門家チームに参加し、プロジェクトの組織強化を担当している。

女性に多く受け入れられた背景には、バングラデシュの文化的な事情が影響している。「イスラム教徒が多いこの国では、女性が親

現在、22年に開業予定の都市鉄道 MRT6号線とダッカ市内のほかの公共交通の料金システムの統合と、クリアリングハウスの運営会社設立を目指すフェーズ2が進行中だ。「バングラデシュの交通サービスががらりと変わる、社会的な責任があるプロジェクトとして取り組んでいます。今回のプロジェクトには含まれていませんが、コロナ禍で人との接触を避けることが求められる場面が増えていますし、日本のようにICカードのICカードで買い物までできるようになる日もそう遠くはないかもしれません。これからはやりがいを持って進んでいきます」と、三石さんは意義について力強く語ってくれた。